FURUSATO no HOKORI

ふるさとの誇り 其の80

木造獅子頭（もくぞうししがしら） 諏訪神社（百々）

～鎌倉時代の息吹を今に伝える～

百々の諏訪神社で大切に守り伝えられている獅子頭は、上あごに刻まれた銘文から、嘉元三年（一三〇五）、今から七百年以上も前の鎌倉時代に造られたものであることがわかります。

ヒノキを彫刻して造った造形は、目や鼻など各部位が、大きくデフォルメされて、そのお顔は迫力満点でユーモラスでもあります。口の中は朱色に塗られ、外側は漆塗りですが一部に金箔がのこり、所々にヒゲなどを植毛していた跡もあります。

現在、この獅子頭を使った獅子舞自体は、すたれてしまいましたが、同じ彫刻でも寺社に安置される仏像や神像と違い、激しい舞などに使われる獅子頭は、古い時代のものがのこりにくく、鎌倉時代のものが伝えられているのはとても珍しいのです。この獅子頭は現在のこされている中では全国でも五指に入る古さを誇り、県の指定文化財になっています。

この諏訪神社がある百々をはじめとした御勅使川扇状地扇央域は、水に乏しく耕作にはあまり適さない地でしたが、平安時代になると開発が進み、この獅子頭がつくられた鎌倉時代には、そのほぼ全域が「八田牧（はったのまき）」と呼ばれる大規模な牛馬の飼育施設であったことが知られています。百々諏訪神社の獅子頭は、扇状地を切り拓き、獅子舞を舞い、生きた鎌倉時代の人々の活力や息吹を今に伝えてくれているようです。

※なお、この獅子頭は、諏訪神社の社宝として大切に守られている信仰の対象であり、現在一般に広く公開されているものではありません。

ふるさと文化伝承館エントランス展

ふるさとを想う心 ―尾張藩士 野呂瀬主税助（のろせちからのすけ）と十日市―

期 間：1月17日～5月14日（木曜日休館）

鼻採地蔵縁起

掛絵六地蔵菩薩像

南アルプス市に春を告げる祭として知られる「十日市」。現在、私たちがその歴史を知ることが出来るのは、『鼻採地蔵縁起』という巻物によるところが大きいのですが、江戸時代のはじめ、この縁起を記したのが今回ご紹介する野呂瀬主税助なのです。

現在の十日市場周辺を拠点とし、武田氏に仕えていた主税助は、武田家滅亡後、甲府城代として甲斐国に入ってきた徳川家の平岩親吉に従い、尾張国（現在の愛知県）に移り住み、尾張藩士としてそこで生涯を終えます。しかし、彼は終生ふるさとを思い、様々なものを故郷の地に贈っています。そのひとつが『鼻採地蔵縁起』なのです。今回の展示では、彼の思いをたどり、彼が故郷に贈った数々の文化財を展示するほか、あわせて「十日市」の歴史もひも解きます。

特別展示：掛絵六地蔵菩薩像
（野呂瀬主税助筆 市指定文化財）

期間中、ミニ巻物づくりが体験できます（有料／常時）

関連事業 南あるぷす史学講座

講 演：「ふるさとを想う心 尾張藩士 野呂瀬主税助と十日市」
日 時：1月26日（日） 午後2:00～
場 所：ふるさと文化伝承館
申 込：不要
講 師：文化財課職員がわかりやすく解説します。

お問合せ ふるさと文化伝承館 TEL(282)7408
教育委員会文化財課 TEL(282)7269

獅子頭の納められる百々諏訪神社

上アゴの内側に、嘉元三年（1305）藤原吉宋の銘がある